

講演者・パネリスト紹介

クリスティーヌ・ヤッシュ

環境経済研究所（ウィーン）を創立し自ら所長を務める。大学で政治経済学、経営学、農学を学ぶ。公認会計士の資格を持ち、ウィーンにおいて税理、会計コンサルタント業務を行う。研究者としての立場から、企業や政府機関が科学的視点に立って環境保全を重視した活動を行い、さらに環境管理推進のための意思決定機関として機能する方向で事業を行うことを重視している。同研究所は現在、環境パフォーマンスの評価と指標、エコデザイン、エコサービス、製品のライフサイクル評価、環境管理システムとその監査、会計、報告の分野において活動している。ISO TC 207 環境管理委員会にオーストリア代表として参加。同機関の国内対応機関であるオーストリア標準化機関委員長、欧州会計士連盟（FEE、本部ブリュッセル）サステナビリティ作業部会のオーストリア代表を務める。1995年12月制定のEMAS規定が定める「上級証明者」（lead verifier）の資格も持つ。教育者として後進の指導にも当る。国連環境管理会計専門家会合で、環境会計の概念を体系的に整理した報告書「ワークブック1」のとりまとめを担当。

ハワード・ピアス

リバプール大学卒業。英国公認生物学者の資格を持つ。英国河川局、スポーツ委員会、リーバレー公園局、水研究センター、ウェールズ水道局などにおいて研究、政策立案、運営、情報技術、マーケティングなどに携わった後英国環境庁に入り、現在同庁財務部企業計画部長を務める。英国環境庁は政府3省（DETR、MAFF、NAW）の助成を得て運営され、スタッフ1万1千人を抱える。年間予算6億5千万ポンドの内訳は、政府助成30%、企業負担40%、地方自治体分担30%となっている。氏は、同庁において庁全体の事業計画システム、事業報告システムを統括。環境管理会計はこれらシステムの一部をなす分野。この任務の中で「年間企業計画」（Annual Corporate Plan）、「年間報告及び勘定」（Annual Report and Accounts）、「企業環境報告」（Corporate Environmental Report）などのプロジェクトを統括。いずれにも環境会計に関する情報が盛り込まれている。同庁本部のISO 14001 認証取得のための一連の活動も指揮した。その他、同庁が公共機関、企業、会計専門機関、財政部門などに対して行う活動の助言とプロモーションを統括。また、国が行う「企業環境管理」（Corporate Environmental Governance）において同庁が担当する政策策定業務の指揮を取る他、英国会社法改定作業に対するインプットも行う。国連環境管理会計専門家会合英国代表も務める。

國部 克彦（こくぶ かつひこ）

神戸大学大学院経営学研究科教授。社会環境会計専攻。博士（経営学）。大阪市立大学助教授、ロンドン大学（LSE）客員研究員、神戸大学助教授等を経て現職。環境省「環境会計システムの確立に関する検討会」委員、環境省「環境会計に関する企業実務者研究会」アドバイザー、同「環境報告書作成ガイドライン改訂検討会」委員、経済産業省委託（社）産業環境管理協会「環境会計委員会」委員長、郵政省郵政研究所客員研究官などを歴任。（財）地球環境戦略研究機関客員研究員、グラスゴー大学社会環境会計研究センター国際客員研究員、アジア太平洋環境管理会計ネットワーク運営委員、環境経済・政策学会理事、日本社会関連会計学会理事などを務める。主著：『環境会計』（新世社、2000年）『社会と環境の会計学』（中央経済社、1999年）『環境情報ディスクロージャーと企業戦略』（東洋経済新報社、1998年）『ソーシャル・インベストメントとは何か』（日本経済評論社、1998年）

三好 信俊(みよし のぶとし)

環境省総合環境政策局環境経済課長。

1958年生まれ。1980年東京大学法学部卒業。同年環境庁に入庁。97年9月より環境庁長官官房秘書課調査官、その後地球環境部環境保全対策課調整官(98年7月より)、長官官房総務課広報室長(99年8月より)を経て、2001年1月より現職。企業の環境マネジメント、グリーン購入、環境保全に係る税制の検討等を担当。

古賀 剛志(こが たけし)

富士通株式会社環境本部長代理。1968年富士通株式会社入社。情報処理事業推進本部 技術管理部部長、環境技術推進センター長を経て、2000年より現職。

1999年環境経営の先駆けとなる環境会計を発表。富士通において、その総指揮を取り、企業活動と環境を結びつけた環境経営を推進。環境会計や環境経営に関する講演を多数実施。特に、企業の説明責任(アカウンタビリティ)の必要性を社会にむけて発信。また、環境省「環境会計に関する企業実務研究会」電機・電子ワーキンググループの中心メンバーを務める。

水口 剛(みずぐち たけし)

高崎経済大学助教授。公認会計士。

1962年生まれ。ニチメン(株)、英和監査法人勤務等をへて現職。主な研究テーマはソーシャル・インベストメント、企業の環境情報開示、環境会計などで、現在、日本公認会計士協会経営研究調査会環境会計専門部会の部会長、経済産業省委託調査(社)産業環境管理協会環境会計委員会副委員長などを務めている。バルディーズ研究会運営委員(1991年~2000年)、環境監査研究会幹事(1991年~2000年)、同監事(2001年~)など、環境NPOでも活動してきた。環境省「環境会計に関する企業実務研究会」食品ワーキンググループのアドバイザー。主な著書に『ソーシャル・インベストメントとは何か』(共著、日本経済評論社、1998年)がある。

デボラ・サヴェージ

クレムソン大学で化学工学を専攻。マサチューセッツ工科大学で博士号取得。フルブライト奨学生として西ドイツクラウシュタル工業大学で1年間学ぶ。現在、ボストン所在の環境研究およびコンサルティング非営利企業テラス研究所(Tellus Institute)シニア・サイエンティストとして環境会計、企業の環境パフォーマンス測定および報告分野のプロジェクト開発、運営を統括、ケミカル、エレクトロニクス、通信、自動車、ドライクリーニング、印刷などの分野の大小様々な規模の企業を対象に各種プロジェクトを運営し、調査統括を務める。プロジェクトの他に環境会計、投資の決定などに関する研修・訓練コースの企画、組織、運営も数多く手がける。これらの機会を通じて、各種企業の環境担当者、生産現場従業員、会計士、政府機関専門技術援助スタッフ、財務専門

職らなどの指導に当る。氏がサービスを提供するクライアント、プロジェクトスポンサーとしては、企業、アメリカ各州政府諸機関、連邦政府諸機関(米国環境保護局他) 各種国際機関(米国国際開発局、国連環境プログラム、国連持続可能開発部)など多彩を極める。国連環境会計専門家会合では、環境会計の普及策を整理した「ワークブック3」のとりまとめを担当。

ファティマ・レイエス

フィリピン公認会計士。デ・ラ・サール大学(マニラ)にて経営学修士号取得。フィリピン公認会計士協会(PICPA)環境会計委員会の委員長を務める。PICPA有資格者継続学習プログラムの一環として環境会計セミナーを開設し自ら講師を務める。また国内の大学における会計学講座のカリキュラムに環境会計学を導入することを提唱し、そのために指導的役割を演じた。マニラ市内の大学その他の教育機関で会計、財務に関する講座を受け持つ。また新しく結成されるアジア太平洋環境管理会計ネットワーク(EMAN-AP)運営委員でもある。98~99年USAID/CSGが主催して行ったフィリピンの企業で働く会計士および技術者を対象に行ったクリーンな企業利益に関する研修講座の立案と講師役を務めた。2000年にはシンガポールにおいて開催の環境社会会計に関する3日間講座の講師陣に加わる。2001年に国連環境計画(UNEP)が開発途上諸国において行ったクリーンな生産に向けての投資を促進するためのプロジェクトでは、国際コンサルティングチームの一員として活躍。同プロジェクトの一環としてハノイ市およびホーチミン市で開催された講座「クリーンな生産をしながら行う利潤の追求」を主宰した。

<主要論文>

“The Greening of Accounting: Putting the Environment in the Agenda of the Accountancy Profession in the Philippines”(会計の中で行うグリーン活動:フィリピンにおける会計アジェンダの中に盛り込む環境配慮)季刊 *The Accountant's Journal* (2000年第3、4号)掲載

“Why Environmental Accounting?”(環境会計をなぜ行うのか) *Philippine Pollution Prevention Roundtable Newsletter* (2000年10-12月号)掲載

“International Accounting Standards Relating to Environmental Issues in Business”(ビジネスにおける環境問題に関する国際会計基準) *The Accounting Times* (2000年3月号)掲載

<最近行った発表>

“Accounting for the Environment in New Economy”(新分野企業において行う環境会計) National Convention of the Confederation of Asian and Pacific Accountants (2000年11月マニラ開催)において発表

“Environmental Management Accounting for Cleaner Production”(よりクリーンな生産のための環境管理会計) Asia Pacific Roundtable for Cleaner Production (2001年2月マニラ開催)において Tells InstituteのDr. Deborah Savageと共同発表